

環境・社会報告書 2015

KYB
Our Precision, Your Advantage

www.kyb.co.jp



お問い合わせ

KYB 株式会社

環境・安全部

〒105-6111
東京都港区浜松町二丁目4番1号世界貿易センタービル
TEL.03-3435-6465 FAX.03-3436-6759

用紙での配慮



森の町内会
この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



FSC® 認証紙の使用
適切に管理された森林の木材を原料にしている紙を使用しました。

印刷での配慮



グリーンプリンティング
環境に配慮した印刷工程と印刷資材を採用しています。



Non-VOCインキの使用
VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの環境に配慮した100%植物油インキを使用しました。



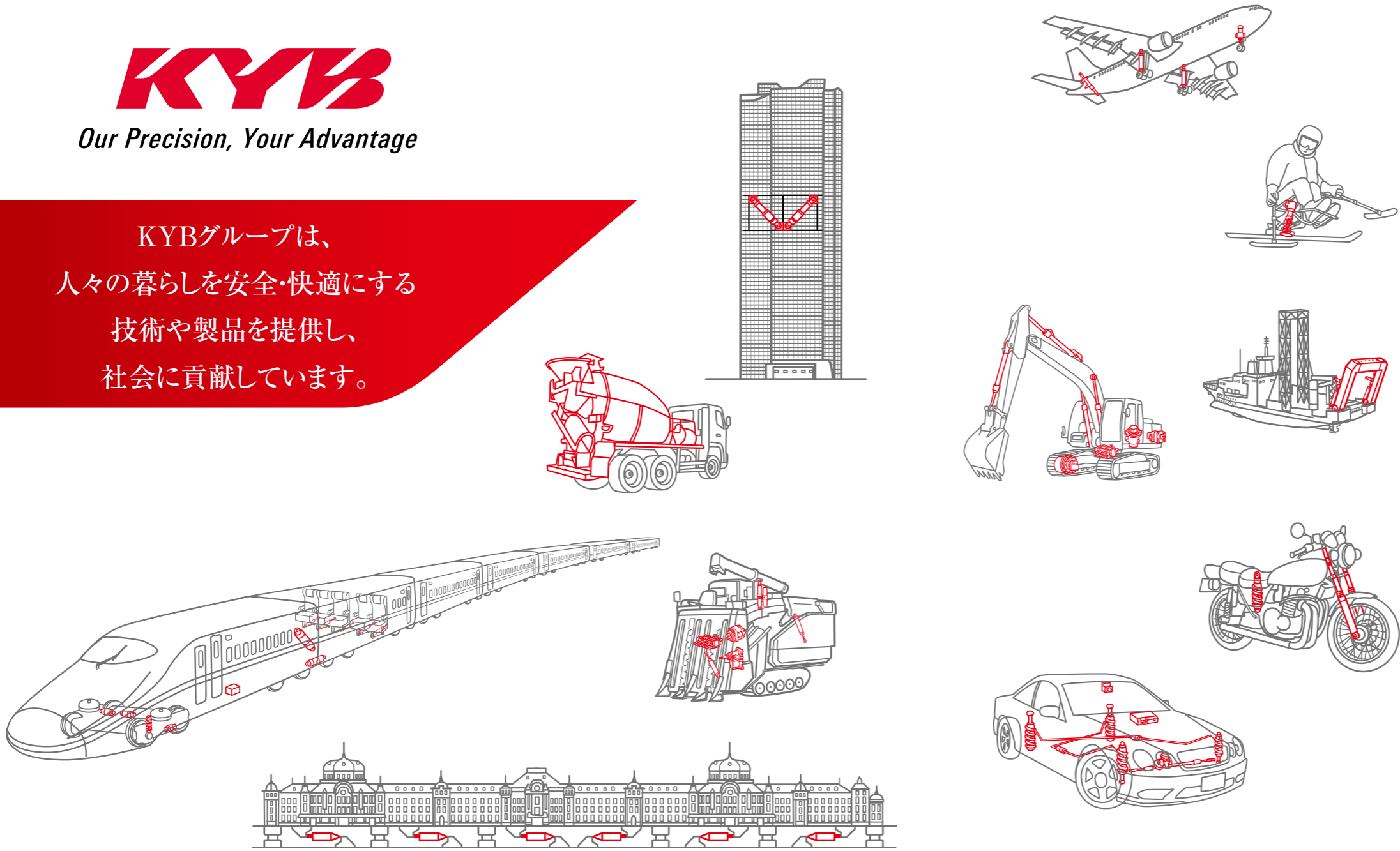
水なし印刷
有機物質を含んだ廃液が少くない、水なし印刷方式で印刷しました。





Our Precision, Your Advantage

KYBグループは、
人々の暮らしを安全・快適にする
技術や製品を提供し、
社会に貢献しています。



編集方針

本報告書は、事業活動を行うに当たって、環境や社会に関わる情報をステークホルダーの皆様にはわかりやすくお伝えすることを目的に発行しています。2015年度版では、環境に配慮した新しい技術や省エネ活動、地域社会との連携などについて多くの具体的な活動事例を掲載しました。また、世界中に拠点を持つKYBグループとして、海外での取り組みも随所でご紹介しています。

今後とも、よりわかりやすい報告書の編集を目指してまいりますので、ステークホルダーの皆様のご意見をお聞かせください。

本レポートの内容は、当社のwebサイトにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。

<http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

対象期間

2014年4月～2015年3月
(一部期間外の取り組みや報告も掲載しています)

対象範囲

KYB株式会社および国内外の関係会社を対象としています。
各種の環境データに関しては、特に注記のない場合はKYB株式会社(相模工場、熊谷工場、岐阜北工場、岐阜南工場、岐阜東工場)のデータを示しています。

発行時期

2015年6月(次回:2016年6月予定、前回:2014年6月)

参考にしたガイドライン

- ・環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
- ・GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3.1版」などの考え方を参考に編集・作成しています。

将来の見通しに関する注意

本報告書には発行日時点における計画や見通し、経営計画・経営方針に基づいた将来予測を含んでいます。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報により判断しており、諸条件の変化によって異なる可能性があります。ステークホルダーの皆様には、以上をご了承いただきますようお願い申し上げます。

Contents

- 2 編集方針・目次
- 4 トップメッセージ
- 6 KYBグループ概要
- 8 KYBグループの目指す姿

10 2014年度活動ハイライト

- 14 安全・快適で人と地球に優しい製品

マネジメント報告

- 16 経営マネジメント
コーポレート・ガバナンス
- 17 内部統制/コンプライアンス

環境報告

- 18 環境マネジメント
環境基本方針
環境保全に関する目標達成状況/環境会計
- 20 環境負荷の低減活動
事業活動に伴う環境への影響
地球温暖化防止活動
生産拠点活動
化学物質の管理と排出量の低減
廃棄物低減への取り組み

社会性報告

- 26 **お客様のために**
お客様満足向上の取り組み
- 27 **お取引先様とともに**
パートナーシップの構築
- 28 **地域社会のために**
社会支援活動
- 31 **従業員とともに**
人財の活用と職場環境づくり
人財育成と技術力の向上
従業員コミュニケーション
安全で動きやすい職場づくり

製品力と人財力を高め、 持続可能な社会の発展に 貢献してまいります

KYBは2015年、創立80周年を迎えることができました。この80年間KYBおよびKYBグループの活動にご支援いただいております皆様方に御礼申し上げます。KYBグループは今後も社業を通し成長し続け、皆様方の信頼を得られる企業になるため、国内外のKYBグループ一体となり活動を進めてまいります。皆様方におかれましては、今後も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2014年度を振り返って

2014年度のKYBグループの連結での売上高は政府や日銀による経済・金融政策を背景とした円安基調の定着や株高の進行などが寄与し、期首計画の3,690億円を上回る3,704億円となりました。一方、経常利益はグループ全体で原価低減活動を主とする事業構造改革を推進致しましたが、人件費・研究開発費等が増加したこと、連結子会社での製品保証引当金等が増加したこと等から、期首計画の200億円に対し158億円という結果となりました。セグメント別に見ますと四輪車・二輪車用油圧緩衝器などから構成されるオートモーティブコンポーネツ事業では売上高2,370億円、営業利益は68億円となりました。また産業用・航空機用油圧機器などから構成されるハイドロリックコンポーネツ事業では売上高1,132億円、営業利益49億円となりました。

KYBグループの環境・社会への取り組み

KYBグループでは、人々の暮らしを安全・快適にする技術や製品を提供し、社会に貢献するために、さまざまな活動を行っております。

環境負荷を低減する活動として、2014年度は廃プラスチックのリサイクル化、排水系産業廃棄物のリサイクル化や塗料カスのバイオ処理等を開始致しました。2015年度は本活動をグループ各社に展開するとともに、エネルギー削減目標として2013年度比2%減、産業廃棄物削減目標として同6%減を達成するための活動を推進してまいります。

また社会貢献活動として、本報告書内でも活動内容を記載しておりますが、岐阜北工場では地下水浄化システムを導入し、災害時に飲料水を確保し、社内だけでなく近隣住民の方に提供できる仕組みを導入しました。

KYBグループは今後も生産・販売活動を展開しているさまざまな拠点で、地域の一員として貢献できる活動を実施してまいります。



KYB創立80周年記念ロゴ

KYBでは創立80周年の記念として左記の記念ロゴおよび看板を作成致しました。

「80周年の感謝と100周年への飛躍」をキーワードとして、Globalization(国際性)、Diversity(多様性)、Succession(伝承)の3つをコンセプトとして決定しました。

8のデザインはメビウスの輪をイメージして連続性を、0(ゼロ)の多重の円は多様性を、アースのデザインはグローバルな広がりそれぞれ表現しています。

人財育成^{※1}・コンプライアンス

KYBグループでは、社会に貢献し続けるための人財育成を継続して行っております。また、KYBグループではコンプライアンスに特に力点を置き研修を続けております。グローバルでの法令遵守はもとより、会社の決めごと、企業行動指針を遂行することにより経営理念を実践していくための活動を今後も継続して実施してまいります。

最後に、KYBグループの環境と社会への取り組みを、本報告書を通じてご理解いただき、より多くのステークホルダーの皆様から引き続きご支援を賜れば幸いです。また本報告書に対する感想のみならず、KYBグループに対する忌憚のないご意見をお寄せください。

※1 KYBでは人材を財産と考え「人財」としています。



KYB株式会社
代表取締役社長執行役員

伊野政夫

Our Precision, Your Advantage

企業の社会的責任がますます重要視される中、
KYBグループではステークホルダーの皆様の満足を得られる
企業グループとなることを目指し、
経営理念のもと、私たち一人ひとりが企業の責任を自覚し、
法令を遵守し行動に結びつけ、信頼される企業であり続けるために
企業価値向上を図っていきます。

経営理念

人々の暮らしを安全・快適にする技術や製品を提供し、
社会に貢献するKYBグループ

1. 高い目標に挑戦し、より活気あふれる企業風土を築きます。
2. 優しさと誠実さを保ち、自然を愛し環境を大切にします。
3. 常に独創性を追い求め、お客様・株主様・お取引先様・社会の発展に貢献します。

ビジョン

人財育成
方針や戦略を深く理解し、情熱をもって目標を完遂できる人財を育成する。

技術・商品開発
世界のお客様が感動し、安心し、そして信頼される商品を提供する。

モノづくり
お客様が満足する商品をつくる喜びと躍動感に溢れ、同時に現場主義に徹した緊張感のある工場にする。

マネジメント
企業の社会的責任を常に自覚し、効率のよいグループ経営を行う。

行動指針

- | | | | |
|----------------|---------------------|-----------------|--------------------|
| (1) 企業倫理の確立と実践 | (8) お取引先との取引 | (14) 企業秘密の保持 | (20) 安全衛生 |
| (2) お客様第一主義の徹底 | (9) 迅速な苦情処理 | (15) 個人情報の保護 | (21) 教育および能力開発 |
| (3) 製品安全の追求 | (10) 業界団体等、諸団体の活動参加 | (16) その他会社財産の保護 | (22) 差別行為の禁止 |
| (4) 適正な会計・決算処理 | (11) 反社会的勢力との決別 | (17) 地域社会との共生 | (23) ハラスメント行為の禁止 |
| (5) 情報開示 | (12) インサイダー取引の禁止 | (18) 自然環境の保護 | (24) 児童労働、強制労働の禁止 |
| (6) 法令の遵守 | (13) 知的財産権の保護 | (19) 労使協調 | (25) 良好な職場環境の維持・改善 |
| (7) お客様との取引 | | | |

ステークホルダーの皆様との関係

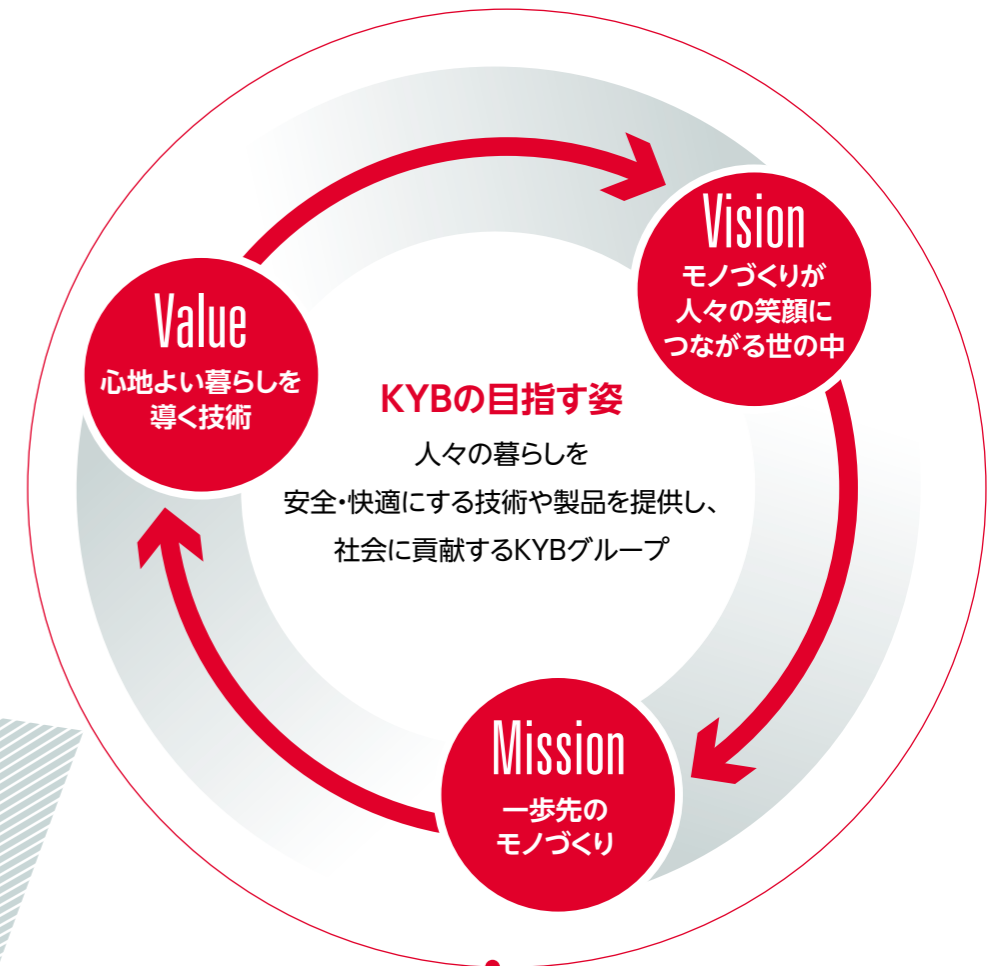


KYBグループの社会的責任

KYBグループでは事業活動の中で常に独創性を
追い求め、お客様・株主様・お取引先様・社会の発展
に貢献することを目指しています。

当社では経営理念とビジョンに基づいたCSR活動
を各部署の年度実施項目に掲げ実践しています。そ
してその行動をチェックして改善改新のサイクルを継
続して実践しています。

従業員は当社の行動指針を携行しており、CSR(企
業の社会的責任)の重要性の認識を深めています。



Vision

KYBブランドが実現したい世界
モノづくりが人々の笑顔につながる世の中

KYBが目指すのは、モノづくりのよこごびが社会の発展を支え、人々の笑顔につながっていく、そんな世の中です。

Value

KYBブランドがお届けする価値
心地よい暮らしを導く技術

感覚的価値：心地よい暮らし、モノづくりのよこごび
機能的価値：確かな品質

KYBがエンドユーザーに約束する価値。それは、独創的な技術と真摯な製品開発がもたらすワンステージ上の「心地よい暮らし」です。

KYBがお得意先様に約束する価値。それは、エンドユーザーまでも「お得意先様」と考えることから生み出される「確かな品質」です。

KYBが従業員に約束する価値。それは、一人ひとりが世の中を変えていくことを実感できる「モノづくりのよこごび」です。

Mission

KYBブランドが果たすべき使命
一步先のモノづくり

KYBは、これまで培われてきた確かな技術力を生かして、お得意先様や市場に価値ある提案のできる企業であり続けます。新しい価値やかつてない満足度、お得意先様に提供していくために、自らの力で、一步先に進んだモノづくりを実践していきます。

2014年度活動ハイライト

コアコンピタンスである「振動制御技術」「パワー制御技術」にシステム技術、電子技術を融合し、さまざまな分野のお客様の幅広いニーズにお応えします。
今回のハイライトでは環境や安全に配慮した技術製品や環境配慮型工場を紹介します。



Highlight 1 製品開発

✂ 環境に配慮したミキサ車の開発

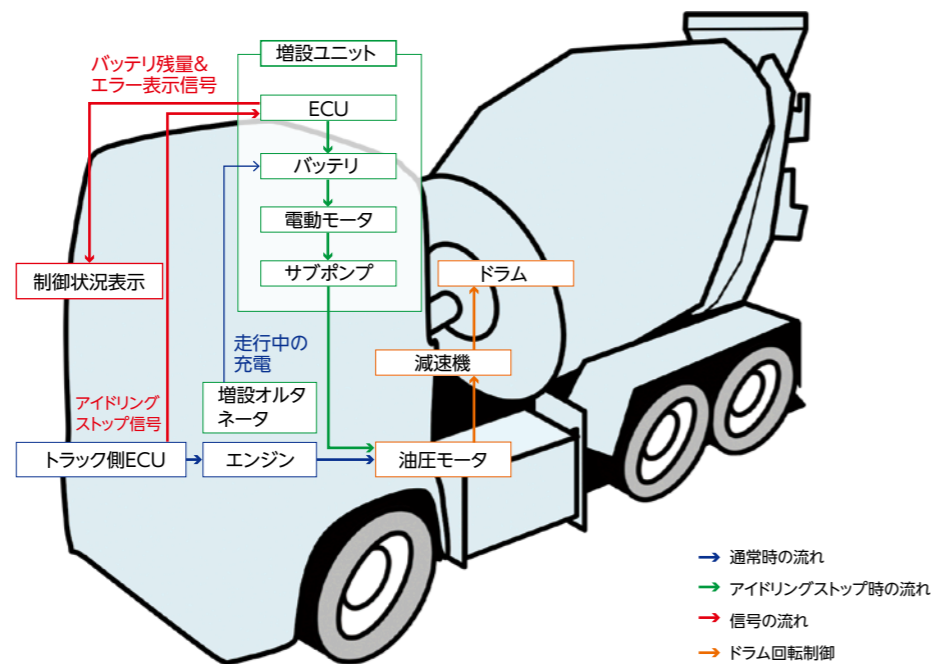
トラックシャシーメーカは、燃費向上やCO₂削減のため、アイドリングストップ機能付のトラックを標準的にラインアップしています。これまでのコンクリートミキサ車は、生コンの品質を維持するためドラムを常に回す必要があることから、その駆動源であるトラックのエンジンを停止することができませんでした。

KYBのアイドリングストップミキサシステムは、制御コントローラ(ECU)、バッテリー、電動モータ、サブポンプで構成さ

れ、走行中に充電を行い、トラックがアイドリングストップした際にドラムを駆動します。トラックの動きと連動し、運転手が意識することなく使えるシステムであり、既存油圧回路を利用した構成となっています。

また、本システムの効果として年間軽油消費低減量は、約1,255ℓ(CO₂排出量換算で約3.28トン)となり、ミキサ車の作業全体で、従来比約27%の燃料を低減する環境に配慮したコンクリートミキサ車となっています。

年間軽油消費低減量
1,255 ℓ
CO₂排出量換算
3.28 t



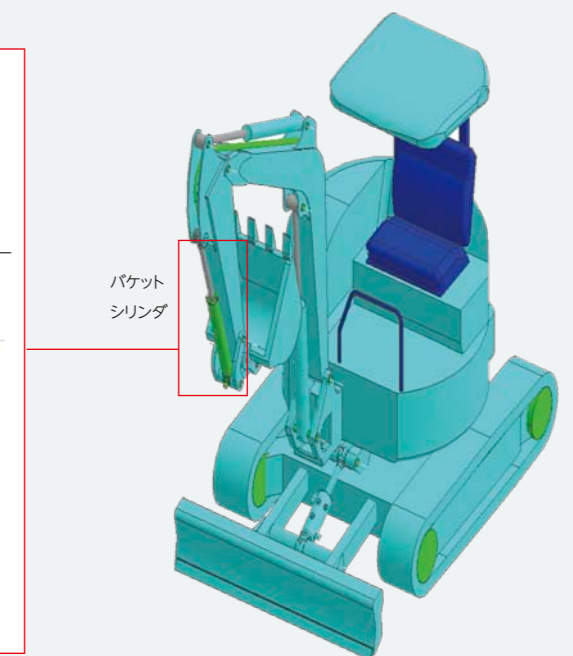
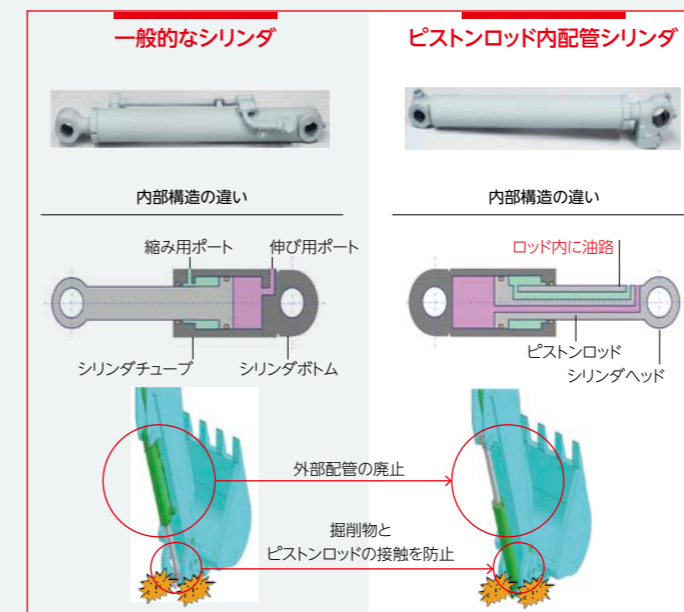
✂ ピストンロッド内配管シリンダ(外部配管レス)の開発

油圧シリンダとは、外部から入力される圧油流体を直線運動へ変換し、高荷重を発生させるための装置で、耐久性を確保する技術が必要な製品です。通常、油圧を供給する伸び・縮みポートは、シリンダボトム・シリンダチューブ・シリンダヘッドで構成されるチューブ側に設置され、必要に応じ油圧配管が取り付けられます。

KYBが開発したピストンロッド内配管シリンダは、ピストン

ロッド内に油路をつくり、伸び・縮みポートをピストンロッド側に設けることにより、外部油圧配管をなくした外部配管レスのシリンダです。

外部配管がなくなることにより軽量化が可能となります。また、油圧ショベルの掘削作業時に被掘削物との接触の可能性が高いバケットシリンダに用いることでピストンロッド摺動面の傷つきを防ぐという効果が期待されます。



Highlight 2 技術賞受賞

極小土地用免震オイルダンパ



地震による揺れが建物に直接伝わることを防ぎ、建物だけでなく居住者や家財への影響を小さくし安全・安心を確保する方法として、免震建物があります。従来の免震建物は建物が地面に対して横に大きく動くため、建物周辺に十分なスペースが取れないような都心部では適用が困難でした。

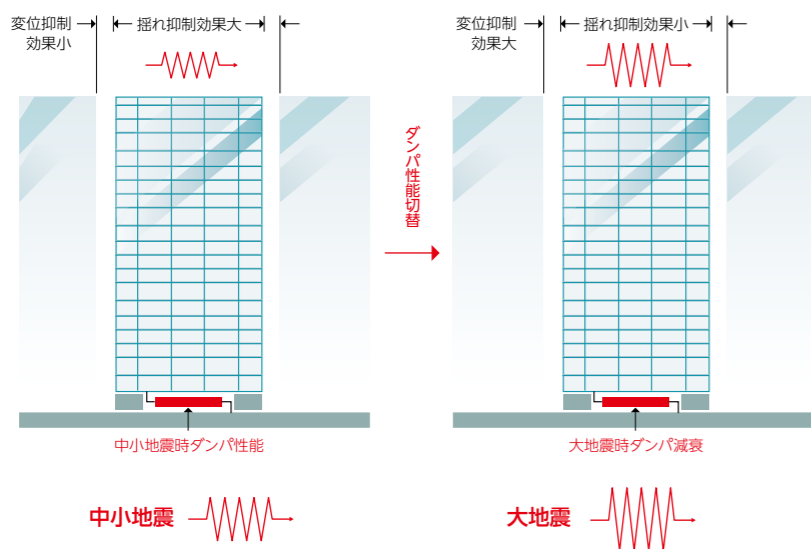
そこで、免震による建物の動きを従来の半分程度に制御する切替型の免震用オイルダンパを大成建設(株)殿と共同で開発しました。中小地震による揺れに対してはダンパの動きを阻害せず、大地震の際にはダンパの動きを抑制するようダンパ性能を機械的に切り替える機構を付加しました。

現在、都市型ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)の実験・検証施設である大成建設(株)技術センター内のZEB実証棟に採用されています。

このダンパの適用により、都心部で建物同士が隣り合うような狭い場所でも建物の免震化が可能で、高密度な市街地に建設する建物のさらなる安全性の向上に貢献していきます。

(本技術により第16回日本免震構造協会賞(技術賞)を受賞)

都市型小変位免震システム概要



Highlight 3 環境配慮

環境に配慮した新工場

カヤバ システム マシナリー(株)では、東日本大震災以降の免制震ダンパの増産に伴う専用工場を、2013年12月に竣工しました。新工場では多様化するダンパ製品に対し、柔軟性を持たせた生産体制、生産ラインを構築しました。

新工場では以下の3つのコンセプト、生産・事務効率の向上、環境・安全・防災の向上、および省エネ・省資源を図っています。

①生産・事務効率の向上

工場内では空調設備設置による作業負担の軽減、および異物混入の防止を図りました。事務所では、総合事務所に全部門を集結させ、間接部門の効率化と省エネ効果を実現しました。

②環境・安全・防災の向上

塗装専用工場を建設し、排気集塵装置の設置により、VOC対策を実施しました。また、建物への免制震ダンパの設置、主要設備の液状化対策により強靱な工場としました。

③省エネ・省資源の実現

事務所内の省エネ対策として、インナーライトシェルフによる自然採光、断熱性のよいサンドイッチパネルとLow-Eペアガラスなどの採用により環境負荷の低減を実現しました。

また、当工場は海拔1mの低地に立地するため、南海トラフ地震による津波を想定し、屋上に避難場所を設けました。また、地域住民の緊急かつ一時的な安全を確保するため、「津波発生時における緊急避難場所としての一時使用に関する協定」を津市と締結するなど地域社会への貢献を推進しています。



安全・快適で人と地球に優しい製品

皆様に笑顔と心地よい暮らしをお届けするため、モノづくりの技術を追求しています。
KYBグループの安全と環境に配慮した製品をご紹介します。

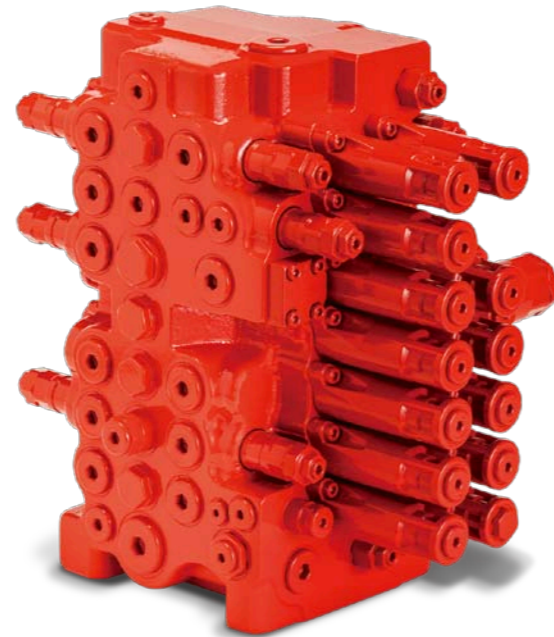
油圧ショベルの燃費低減に貢献

中型油圧ショベル用コントロールバルブ KYMG-270-XF

近年、油圧ショベルの排ガス規制強化に伴い、油圧機器への省エネ化・高効率化の要求が高まっています。

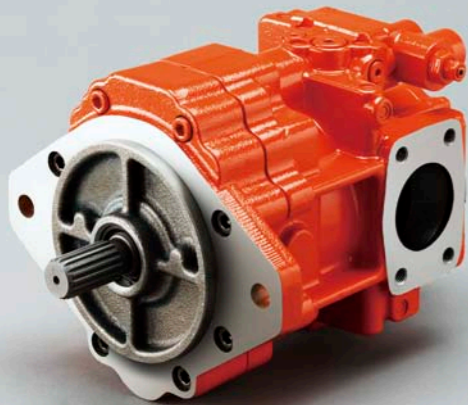
これに対応するため、20トンクラスの油圧ショベル向けコントロールバルブの開発を行いました。

油圧回路の見直しに加え、性能向上や電子化対応等の機能アップを盛り込むことで作動効率を向上させ、また部品レイアウトやサイズ、油路面積の最適化によりエネルギーロスとなる圧力損失を30%以上低減し、油圧ショベルの燃費低減に貢献する製品を開発しました。



小型ショベル用油圧ピストンポンプ PSYL-84

省エネ化の市場要求が高まる中、小型、軽量、高効率をコンセプトに、6~9トン小型油圧ショベル用油圧ピストンポンプを開発しました。エンジンの燃費低減に貢献すべく、ポンプ効率を約7%向上させました。また、製品重量を約18%低減し、製造時における材料使用を低減するとともに、摺動部材に鉛レス材料を積極的に使用しています。



ライダーに高い操縦安定性を提供



CRF450R(本田技研工業(株))

超軽量モトクロス用フロントフォーク Pneumatic Spring Fork 2

KYBモーターサイクルサスペンション(株)では、オフロード用競技車両(モトクロス車)向けに、作動性のよさと大幅な軽量化を図った倒立フロントフォークPSF2(Pneumatic Spring Fork 2)を開発しました。空気ばねを利用したダンパ構造とし、従来のコイルスプリングタイプに比べ1kg(製品重量に対し12%)の軽量化、また軸受部へ積極的に油を供給する構造を採用することで、軽快なハンドリングと高い操縦安定性を実現しています。

あなたの町の“ごみ”を見守る 「ごみ検くん®」

一般ごみは、各自治体で分別方法が決められ、それに基づいて回収されていますが、中には受入対象外のものなどが混在しており、処理工場の設備に悪い影響を与える場合があります。「ごみ検くん®」は、搬入物の中に不適合物が混在していないかの検査をするための装置で、近年多くの自治体に導入されてきています。ごみの分別・減量をはじめとして、設備の維持費低減などに貢献しています。

廃棄物の分別・減量を実現



導入例: 北海道旭川市近文清掃工場

環境負荷物質低減を実現



運行支援用「携帯通信端末」

通信端末は、GPSと衛星電話・携帯電話を利用し、車両や建機などの運行状態のモニタリングや遠隔制御を支援するシステムです。携帯電話の電波が届く場所であれば、世界中で利用することが可能となります。

GSM・3G通信端末は、海外で販売利用されるため、RoHS指令に準拠し、環境負荷物質低減を実現するとともに、リサイクルできるように樹脂筐体としました。

今後も、位置(GPS)、通信、センサーをキーワードに、他分野にも応用していきたいと考えています。

経営マネジメント

コーポレート・ガバナンス

■ 基本的な考え

KYBグループは市場のグローバル化が進展する中、企業価値の向上を図るため、コーポレート・ガバナンスの強化を重要課題として認識しています。また、当社は経営理念の実現を目標に継続的な施策を実施し、ステークホルダーの発展を含めた、社会への貢献を当社の使命と位置付けています。

■ コーポレート・ガバナンス体制

当社は監査役会の設置形態を採用し、コーポレート・ガバナンスが有効に機能するように以下の体制を構築しています。

取締役会は7名で構成され、原則として毎月1回開催しています。また、取締役会を法令で定められた事項のほか、経営方針など経営に係る重要事項の意思決定や経営執行の監視機関と位置付けています。

執行役員制度の導入に伴い、経営の基幹に係る重要事項を審議する「執行役員会」とともに、国内関係会社の経営執行に係る重要事項を審議する「国内関係会社経営会議」や、海外関係会社の経営執行に係る重要事項を審議する「グローバル・ストラテジー・コミッティー」さらに、取締役社長自らが工場現場に出向き、各製品の品質問題ほか経営課題をフォローす

る「社長報告会」などの会議体を設置し、グループ経営監視体制の強化を図っています。

監査役会は常勤監査役4名で構成されており、うち2名は社外監査役です。社外監査役による監査により、実効性のある経営監視が期待でき、有効なガバナンス体制がとられているものと判断しています。

また、社外チェックという観点から、経営監視機能の客観性をより一層高めるために、社外監査役のうち1名を独立役員としています。

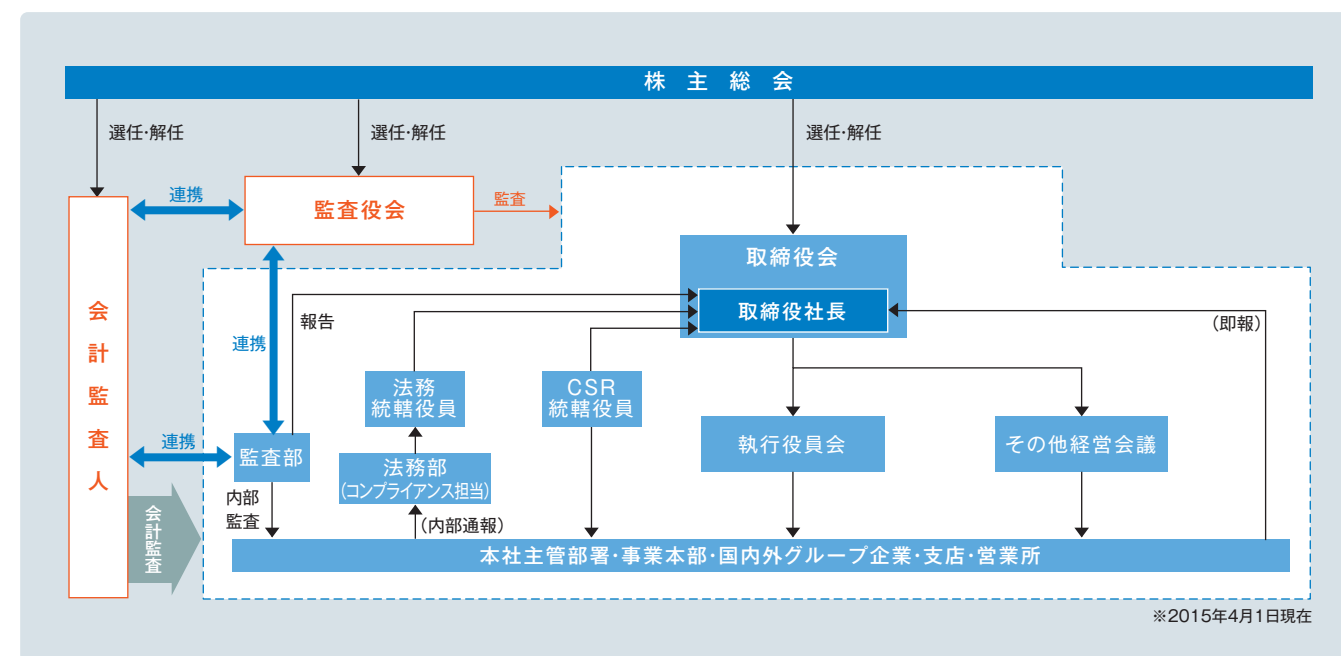
■ 企業の社会的責任

事業活動の中で常に独創性を追い求め、お客様・株主様・お取引先様・社会の発展に貢献することを目指しています。また事業活動はステークホルダーの皆様との良好な関係なしには存続することができません。

当社では、経営理念とビジョンに基づいたCSR活動を年度実施項目に掲げ、実践しています。そしてその行動をチェックして、改善、改新のサイクルを継続して実践しています。

従業員は当社の行動指針を携行しており、CSRの重要性の認識を深めています。

■ コーポレート・ガバナンス体制



内部統制

コーポレート・ガバナンスを有効に機能させる前提として、財務報告の信頼性を確保し、業務の有効性を高め、法令等の遵守を促すために、内部統制システムの整備および内部統制機能の強化に注力することが必要不可欠と考えています。

具体的には、会社法に基づき内部統制システムの基本方針を取締役会で決議し、リスク管理体制整備、グループ管理体制整備、社内コンプライアンス体制整備等の諸施策を推進しています。

また、金融商品取引法に基づき「財務報告に係る内部統制」の整備・評価を法の定める手続きで行い、財務報告の信頼性を確保するとともに、適正な情報開示を実践しています。

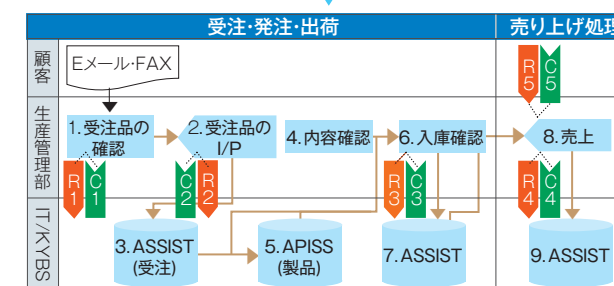
■ 「見える化」による自己管理

業務のルールや手続きは、規程・規則・要領に定めていますが、内部統制の業務処理統制ではさらに仕事の流れを図式化しています。そうすることで、これまでは担当者にしかわからなかった業務内容が担当者以外の従業員でもわかるようになります。また、どこかにリスクが存在していないか、チェック機能が有効に働いていて業務のコントロールがされているかを確認・共有できる仕組みを取り入れています。

2008年4月より開始された金融商品取引法による内部統制報告制度に伴い、KYB監査部ではKYBグループの決算に影響を及ぼす可能性があるプロセスについて図式化を推進し、評価を行っています。

■ 業務内容の図式化

業務	
No. 名称	詳細内容
1	受注品の確認 担当者が品番、納期、数量に間違いや不適切がないか確認
2	受注品インプット 受注品の確認・メール内容を見てインプットする
3	ASSIST (受注) ※販売管理システムでの処理
4	内容確認 担当者が基準日程の中身を確認
5	APISS (製品) ※生産情報管理システムでの処理
6	入庫確認 仕入れ先から部品が納品された後、入庫内容を確認する
7	ASSIST ※出荷データを受け取る
8	売上 担当者が、画面にアクセスし、売上計上の処理を実施
9	ASSIST ※売上実績の集計



コンプライアンス

「コンプライアンス」は「社会規範である法律・命令・規則の遵守」にとどまらず、企業活動に伴う「定款・社内規程・契約等の遵守」、さらに健全な企業活動を進めるための「企業倫理の遵守」と考えています。

- 1 役員と従業員が企業活動を遂行する上で遵守しなければならないルールとして「企業行動指針」を整備し、法令遵守と企業倫理の確立に努めています。
- 2 役員をはじめ、階層別研修・分野別研修等を通じて、コンプライアンス教育を実施しています。
- 3 全グループ企業を対象とする社内通報制度（即報・目安箱）を整備しています。さらに、公益通報者保護法の施行を受け、専用の通報・相談窓口を設置しています。
- 4 個人情報保護方針を定め、社内規程の整備を行い、社内委員会の設置をしています。社外向けに、個人情報問い合わせ窓口を設けています。
- 5 企業の反社会的勢力排除に関する取り組みが強く求められている中、KYBグループでは、お取引先様が反社会的勢力との関係を有している等判明した場合に、契約を解除し得るように、反社会的勢力との関係を有していないことを書面で確認する等の取り組みを行っています。

TOPICS

eラーニングによるコンプライアンス教育

グローバル化に伴い、海外拠点で働くKYBグループの従業員を対象に、コンプライアンス教育の一環として労務管理教育(eラーニング)を実施しています。それぞれの国の法制度についての学習を行い、現地従業員はもちろん、駐在員も各国で大きく異なる部分がある労務制度について基本的な理解を深め、現地の法令に沿った労務管理の重要性を再認識してもらうことを目的としています。



環境マネジメント

環境基本方針

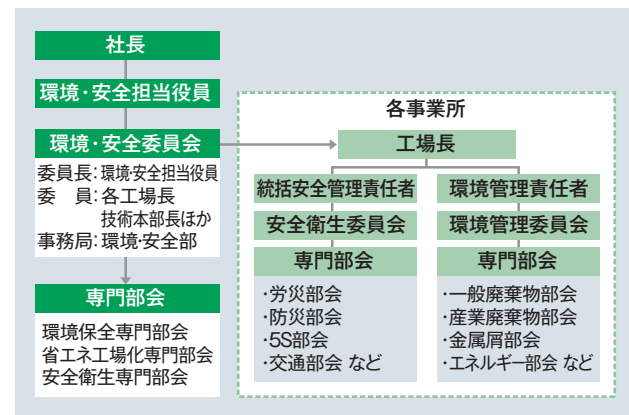
■ スローガン

守ります みどりの地球
創ります 環境にやさしい製品

■ 環境・安全管理体制

環境・安全担当役員をリーダーとする「環境・安全委員会」を設置し、環境面と安全面に関する取り組みについて、同時に意思統一を図っています。同委員会は、環境保全専門部会、省エネ工場化専門部会、安全衛生専門部会の3つのワーキンググループを下部組織に持ち、専門的な視点で活動を推進しています。また定期的に環境および安全の内部監査を実施しています。

■ KYBの環境管理体制



■ 環境基本方針

人と地球にやさしい製品づくりをするとともに、環境保全活動を経営に対する評価の重要な指標と位置付け、積極的に推進していきます。

1. 環境への負荷の少ない循環を基調とした生産活動及び企業活動を整備、構築する。
2. 全社的、長期的かつ持続的な活動、展開を図る。
3. 地域社会との調和を図り、良き企業市民として社会に貢献する。
4. 一人ひとりの役割分担を明確にし、全員参加による活動とする。

■ 環境・安全に関わる中期方針について

2014年度から中期方針フェーズ2を策定しており、環境と安全においても「決め事、遵守、スピード、挑戦」を掲げ取り組みを進めてきました。

環境・安全中期方針(2014年~2016年) 以下抜粋

1. エネルギー・廃棄物の最少化を目指した工場づくり
エネルギー原単位を2013年比で年1%ずつ削減、産業廃棄物の排出量原単位を2013年比で年3%ずつ削減
2. 労働災害ゼロ拠点づくりと拡大
従業員の安全意識を向上し、重大な危険源を撲滅する

環境・安全担当役員からのごあいさつ

人と地球に優しい工場を目指します

執行役員 城所 重夫



環境経営を推進する上で、環境マネジメントシステムを充実させ、省エネルギー、廃棄物の削減、環境汚染の予防など積極的な環境負荷低減に取り組んでいます。省エネルギー活動においては、からくり装置を活用した生産ラインの改善をはじめ、老朽化した空調設備などの積極的な更新を行っています。さらに廃棄物においてはよりきめ細かな分別を行うことでリサイクル化を促進しています。

またステークホルダーの方々とのコミュニケーションを積極的に取りながら社会貢献するとともに、従業員に対するメンタルヘルス不調や労働災害の未然防止活動をさらに活性化させ、安心して働ける職場環境をつくり込んでいきます。

最後に本報告書に関心を寄せていただいたことに感謝申し上げますとともに、今後ともさらなる内容の充実、向上を図っていく所存でございますので、変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

環境保全に関する目標達成状況

環境に関する会社方針に基づき生産拠点毎に「環境管理活動計画」を策定し、目標達成に向けさまざまな活動に取り組みました。エネルギー使用量の削減と生産性の向上やリサイクル化を促進しています。

■ 2014年度の活動結果

テーマ	2014年度目標	2014年度活動結果	評価	掲載ページ	
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量	98,215t-CO ₂ 以下	86,282t-CO ₂	○	P21
	CO ₂ 原単位	1.250t-CO ₂ /百万円以下	1.257t-CO ₂ /百万円	×	
省エネルギー	エネルギー使用量原単位	0.656kL/百万円以下	0.654kL/百万円	○	P25
	再資源化、リサイクル率の向上	リサイクル率	88.4%以上	90.8%	
廃棄物の減量	ゼロエミッション	3.6%以下	3.0%	○	P25
	一般廃棄物	487t以下	535t	×	
	一般廃棄物原単位	2.78kg/百万円以下	2.53kg/百万円	○	
	金属屑	15,311t以下	18,923t	×	
	金属屑原単位	248.1kg/百万円以下	248.2kg/百万円	×	
産業廃棄物	3,549t以下	3,729t	×		
産業廃棄物原単位	30.2kg/百万円以下	25.4kg/百万円	○		

○:目標達成 ×:目標未達

2015年度の主な取り組み概要

温暖化防止
高効率照明への継続的置き換え、設備の待機電力削減、コンプレッサーの負荷低減、老朽設備の更新など

廃棄物低減
塗料カス減容、廃プラスチックのリサイクル化、社内廃棄物のリサイクル化、汚泥の有価物化など

(注) 原単位は限界利益に基づき算出しています。
エネルギーは、電気、燃料を原油換算し、合計値をエネルギー使用量としています。
CO₂排出量およびエネルギー使用量の算出は、当社で定めた方法による。

環境会計

環境保全に対する取り組みを定量的に評価するため、2000年度より環境コストの集計をしています。

■ 環境保全コスト

環境省が示す環境会計ガイドライン2005年版を参考にし、投資額と費用額に区分して集計しています。

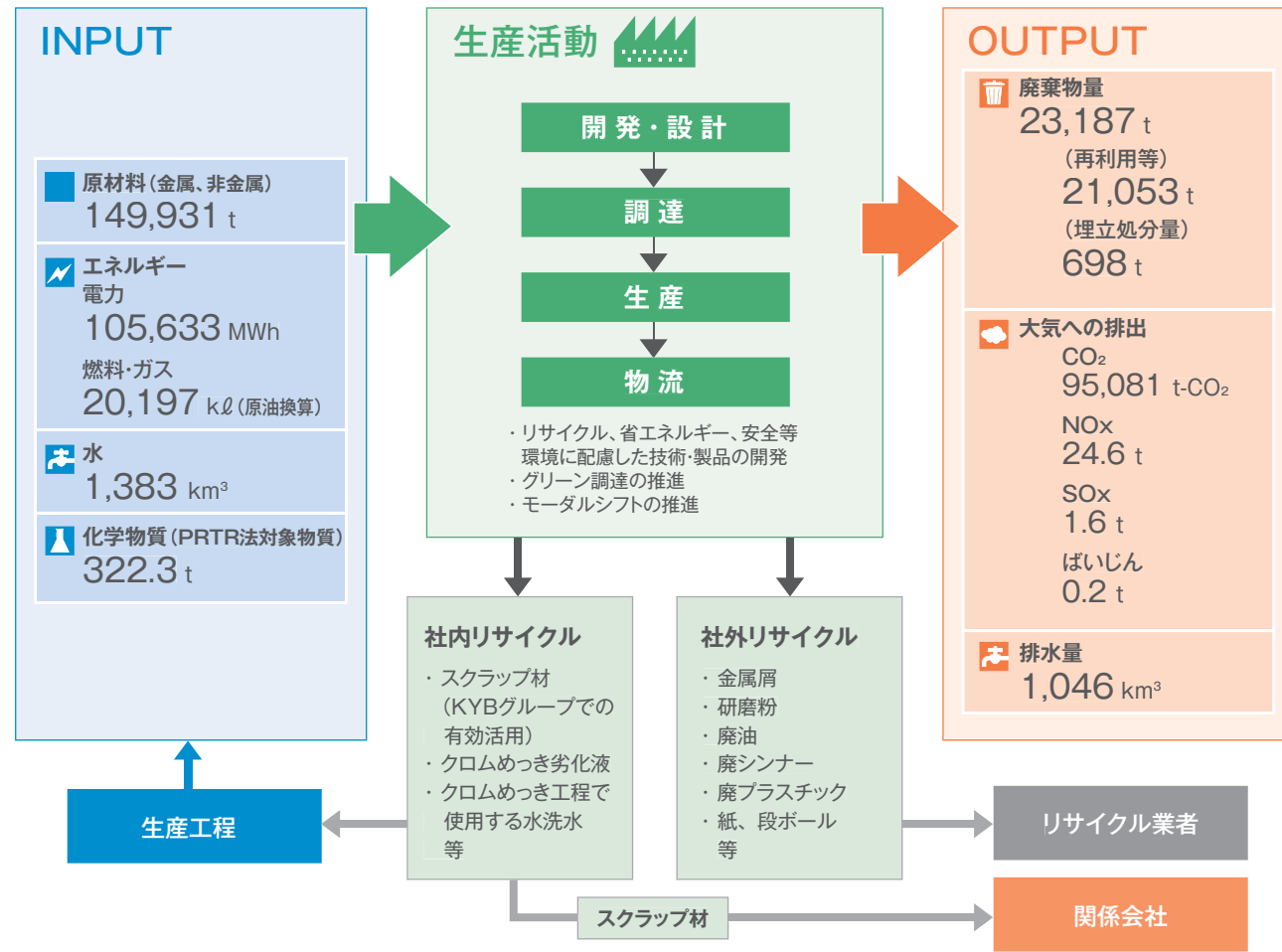
コスト分類	主な内容	投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト	(1)-1 公害防止コスト	54.3	126.4
	(1)-2 地球環境保全コスト	21.5	14.3
	(1)-3 資源循環コスト	116.5	200.4
(2) 上・下流コスト		0	0
(3) 管理活動コスト	・ISO14001の維持・管理 ・環境負荷監視	5.0	71.0
(4) 研究開発コスト	・環境に優しい製品開発 ・軽量化、有害化学物質の削減製品	8.6	51.9
(5) 社会活動コスト	・事業外の環境保護に伴う支援 ・工場周辺の緑化、景観維持	0.6	10.3
(6) 環境損傷対応コスト		0	0
(7) その他のコスト	・内部環境保全 ・福利厚生保全	0	97.1
合計額		206.5	571.4
総額		777.9	

環境保全コストの分類と定義
投資額 対象期間における環境保全を目的とした支出額で、その効果が数期にわたって持続し、その期間に費用化されていくもの
費用額 環境保全を目的とした財・サービスの消費によって発生する費用または損失。

環境負荷の低減活動

事業活動に伴う環境への影響

KYBではエネルギーや水、化学物質など多様な資源を利用しています。限りある資源を効率よく生産するために排出される廃棄物やCO₂などの低減を図っています。



ISO14001 認証取得状況

環境保全への取り組みを体系的に展開するため、国際規格であるISO14001環境マネジメントシステムの導入とその推進を図っています。

国内

KYB	認証登録年
相模工場 (含む 基盤技術研究所、電子技術センター)	2000.12
熊谷工場	2000.12
岐阜北工場 (含む KYB金山)	2001.12
岐阜南工場 (岐阜東工場、生産技術研究所、工機センター、KMS)	2000.2
国内関係会社	認証登録年
KSM(三重工場)	2000.12
タカコ(滋賀工場)	2003.2
KYB-YS	2004.4
KYBトロンデュール	2008.11

海外関係会社

社名	認証登録年	社名	認証登録年
KWT (中国)	2013.11	KMV (ベトナム)	2013.5
KLRC (中国)	2010.1	TVC (ベトナム)	2007.1
KIMZ (中国)	2009.4	KMT(台湾)	2001.6
KHIZ (中国)	2013.11	KYBSE(スペイン)	2001.12
KST (タイ)	2003.8	KSS (スペイン)	2001.6
KYBT (タイ)	2003.7	KMCZ (チェコ)	2009.8
PT.KYBI (インドネシア)	2004.11	KAC (アメリカ)	2002.5
KMSB (マレーシア)	2005.5	TAC(アメリカ)	2013.2
KSMSB (マレーシア)	2005.5	KMB (ブラジル)	2007.3

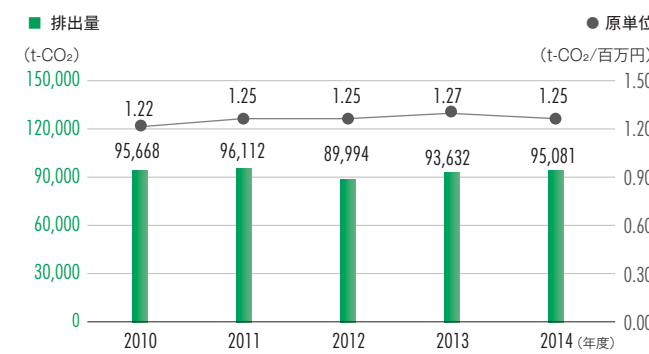
地球温暖化防止活動

油圧技術の複合化により「快適さと力強さ」を社会に提供する企業の生産拠点として、人と地球に優しい製品開発・生産活動を通じ、環境保全に努めます。また、地域社会、国際社会との共生・調和を図り、良好な自然環境を保つよう行動します。

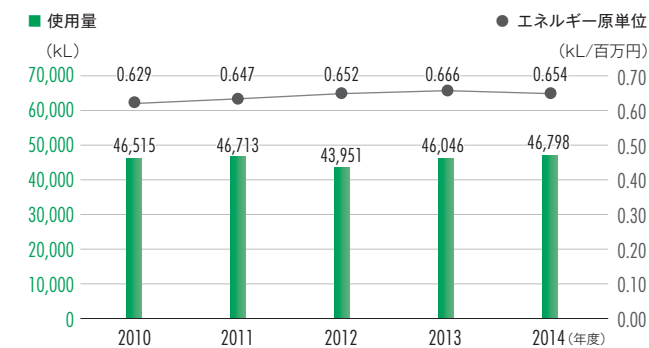
2014年度CO₂排出量、エネルギー使用量

2014年度のCO₂排出量は、原単位において2013年度をベンチマークとして1%削減する目標を立てました。燃料転換や、効率のよいアモルファストランスの導入など、CO₂排出量の低減を推進しました。国内のみならず海外のグループ会社を含め温暖化防止活動を拡充しています。

CO₂排出量



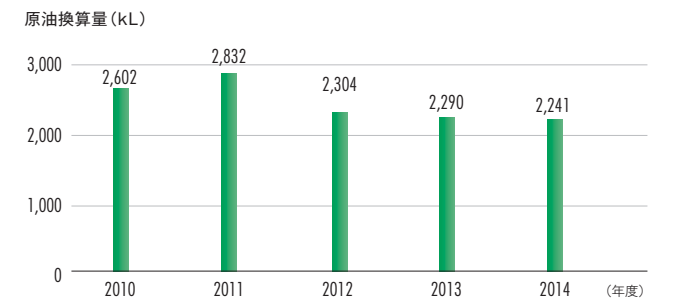
エネルギー使用量



輸送に関わるエネルギーの削減

2007年に省エネ法上の特定荷主に指定され、計画書に基づく低減活動を行っています。共同輸送や梱包箱の見直しによる積載効率の向上など輸送に関わるエネルギー使用量の削減に努めています。

輸送に関わるエネルギー使用量



改善事例

輸向け製品の積載効率改善

岐阜北工場では、市販ショックアブソーバを海外に輸出しています。これまで輸出用の梱包箱は大きな製品に合わせて梱包していたため、コンテナへの積載効率が悪くなっていました。そこで梱包サイズを見直し、細分化することで、パレットへの積載効率を向上することができました。これによりCO₂の排出量を19.2t-CO₂/年削減し、また物流費は7.4%の削減を図ることができました。



斜線部分のムダなスペースをなくしました

大型トラック運行台数 ▲25台/月 削減
CO₂排出量 ▲19.2t-CO₂/年 削減
積載効率 8.2%アップ

環境負荷の低減活動

生産拠点活動

環境負荷低減活動の一つとして、温室効果ガスの低減を図っています。ムダなエネルギーの削減や燃料転換、物流の効率化を図るなど、エネルギーの使用量を低減するさまざまな活動を推進しています。

■ LVD照明の採用

岐阜北工場では、屋外作業用にLVD(無電極)照明を採用しました。LVD照明は電極がありません。消費電力と「10万時間以上の寿命」はLED照明と同じです。自然光に近い色合いで蛍光灯のように光が広がり、広範囲での作業に適しています。ただ、LED照明に比べ照明直下の明るさは劣ります。今後は、LED照明とLVD照明の「使い分け」をしていきたいと考えています。

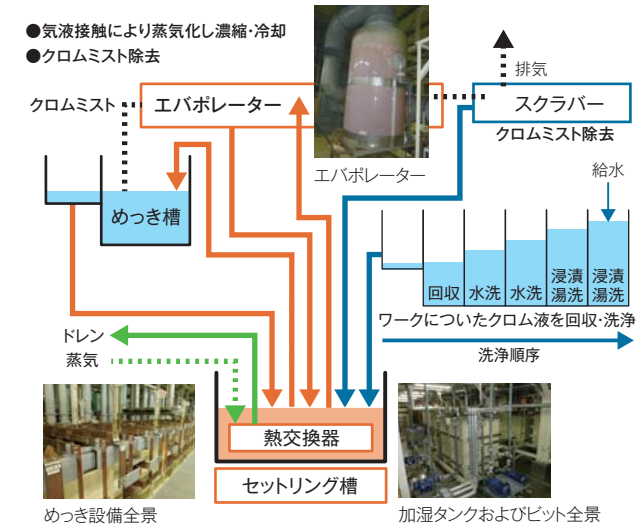


LVD照明

■ めっき排水のクロードシステム採用 ～新工場における環境の取り組み～

2014年3月より稼働したKYB-YS(株)中之条工場のクロムめっき設備では、ハンガーの給電形状と無めっき部分をつくるマスクの形状を工夫して洗浄時の液切れ性を向上させ、めっき後の水洗槽へのクロム液持ち込み量を低減しました。また、めっき槽の温度上昇を防止する冷却装置に、気化熱を利用したエバポレーターを採用して無排水設備を実現しました。めっき本槽には多段向流式による水洗槽からの給水とスクラパーで回収された水を利用することで、クロムの濃縮時の排水処理がなくなり、クロード化が可能となりました。

■ めっきシステム概略図



■ コージェネレーション設備のリニューアル

岐阜北工場では、1999年にコージェネレーション設備を導入して省エネやCO₂削減を進めてきました。このシステムは、電力会社からの電力供給が止まると設備も停止してしまいます。そこでBCP(事業継続計画)の対応として、非常時にコージェネレーション設備を稼働させるための「ガスエンジン」を導入すると同時に、設備もリニューアルして運転効率を向上させました。夏場には「ガスエンジン」を稼働させて「電力のピークカット」を図ります。



リニューアルしたコージェネレーション設備

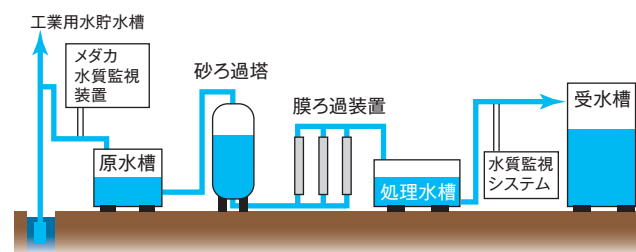
■ 地下水浄化システムの導入

「飲料水」は災害時の早期生産復旧に不可欠です。岐阜北工場では、BCP(事業継続計画)の一環として「地下水浄化システム」を導入しました。これは工業用井戸水をろ過処理して飲料水にするシステムです。災害時に上水道が断水しても、このシステムにより飲料水を確保できます。近隣住民の方にも利用いただけるよう蛇口も設置しました。当システムのリース・維持管理費用は上水道単価よりも安く、システム導入により、上水道費が800万円削減できました。(2013年度比)



浄化システム

■ 地下水浄化システム フロー図



■ 太陽光発電装置の設置

環境負荷の少ないクリーンエネルギーの導入は、国の方針でもあり企業として社会的責任を果たす意味でも必要なことです。しかし、自然現象や地域条件などによって左右され、必ずしも安定的な電力を得ることができないのが問題として挙げられています。

長野県上田市は全国的にも晴天率が高く、太陽光発電に適した場所であることから、KYB-CADAC(株)では空きスペースを有効活用して492kWhの太陽光発電装置を設置しました。2014年12月から発電を開始し、年間約300トンのCO₂削減が可能となりました。

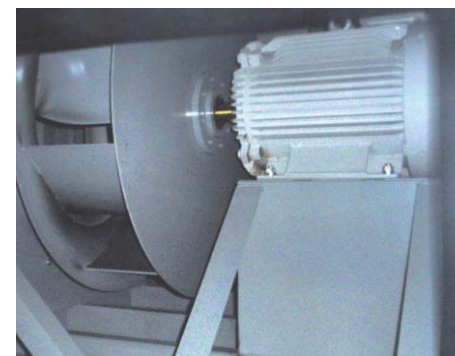


太陽光パネル設置状況

■ 大型空調機の消費電力の削減

相模工場では地球温暖化と環境負荷低減に対応するため、省エネ活動の一環として、大型空調機の消費電力の削減を図りました。

冷暖房に使用される大型空調機の送風ファンは、これまでベルト駆動を使用していたため、スリップなどにより力の伝達ロスが多く発生していました。駆動方法をかえ、直接ファン駆動の高効率型電動機を採用することにより、消費電力を約20%削減することができました。



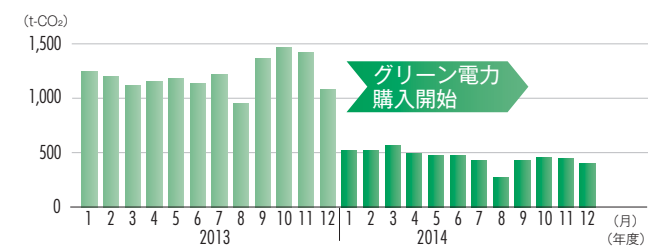
高効率型電動機

■ 電力の100%をグリーンエネルギーに KYBSE(スペイン)

EUの「2020年グリーンエネルギーの生産目標20%」に対し、KYBSEが位置するナバラ州では2013年度では22%に達しており、すでに目標値を上回っています。ナバラ州のグリーンエネルギーは、主に風力発電(47%)、水力発電(14%)、太陽光発電(6%)などで総発電量は5.3万MWhにもおよびます。

このうち約90%が地元ナバラ州で消費され、残りは輸出されています。KYBSEでは2014年1月から使用電力の全量を地元で生産されるグリーンな電力に切り替えました。これによりKYBSEにおけるCO₂排出量は2013年度は14,634t-CO₂/年だったのに対し、2014年度は5,515t-CO₂/年となり、62%の削減をすることができました。今後もグリーンエネルギーの活用を推進していきます。

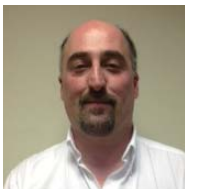
■ CO₂排出量の推移



VOICE

グリーン電力の活用を進めます

私は、KYBSE設備管理課の課長、フアン カラバンテスです。入社以来、23年設備の維持管理業務に従事しています。みどりの地球、州の自然環境を守るため、KYBSEはクリーンエネルギーを活用しています!



KYBSE 設備管理課 課長
Juan Carabantes

■ 照明の省エネ化 KHIZ(中国)

KHIZでは省エネ活動の取り組みの一つとして、シリダ工場の工場照明をこれまでのメタルハライドランプから取付器具をそのまま利用できる電球型蛍光灯に置き換え、照度を維持したまま年間41,000kWh、従来比57%の電力を削減しました。また生産ライン内や事務所の照明においては、LED照明への置き換えを進めています。この高寿命の照明への置き換えは高所交換作業の危険リスク低減、産業廃棄物低減にもつながっています。

環境負荷の低減活動

化学物質の管理と排出量の低減

化学物質は現代社会には欠かせないものです。一方で環境に与える影響が大きいことから、環境負荷に対する国際的な規制も年々厳しくなっており、迅速な対応が必要となっています。KYBグループでは、これらに適切に対応し、使用量の低減と代替品への切替などを進めています。

製品に対する環境規制への対応

KYBグループでは、欧州の環境規制をはじめとするさまざまな規制に対応するための活動を推進しています。

REACH規則に対しては、2011年に製品含有化学物質のデータベースを構築し、各種製品における含有化学物質調査を行い、データの蓄積を図っています。このデータベースの活用により、使用禁止物質および使用制限物質の有無が迅速に確認できるとともに、REACH規則施行時から登録数が随時追加される高懸念物質の確認にも対応できるようにしています。

また、シリンダやバルブなどの油圧機器製品に対しては、RoHS指令における使用禁止物質（鉛、六価クロム等）の廃止活動を展開しており、品質評価試験を通じて部品材質や表面処理を変更することで、順次廃止を推進しています。

データベースを活用した化学物質リスクアセスメント

岐阜南工場、岐阜東工場では、労働安全衛生法の改正による化学物質リスクアセスメントの義務化に先立ち、化学物質の健康障害に対するリスクアセスメントを実施しました。環境・安全衛生活動のために化学物質データベースを構築し、使用しているすべての化学製品の使用部署、含有物質、適用法令、危険有害性、SDSを見える化しているため、化学の知識をほとんど必要とせずリスクを算出でき、「使用者自身に化学物質のリスクを認識してもらうこと」ができました。2015年度は、データベース参照から化学物質リスクアセスメント実施までをより容易にできるよう工夫し、全社展開をする予定です。

PCBへの対応

PCBは絶縁性、難燃性に優れた油種として、電気機器に使用されていましたが、使用禁止物質として指定を受け、法令に基づき、厳重な保管管理と毎年の報告が義務づけられています。グループ会社では431台のコンデンサ等を保管しています。2014年度は関係会社のKYB-YS(株)およびKYB-CADAC(株)に保管されていた全機器5台は処理委託会社を通じ、処理を完了しました。残りのコンデンサ等については2015年度以降も従来どおり保管を継続していきます。今後、他工場でも順次処理が進められます。

PRTR法対象物質の調査

個別事業所毎にPRTR法対象物質の排出量・移動量を把握しています。これらの取扱量については、その他の化学物質を含めて低減を図っていきます。

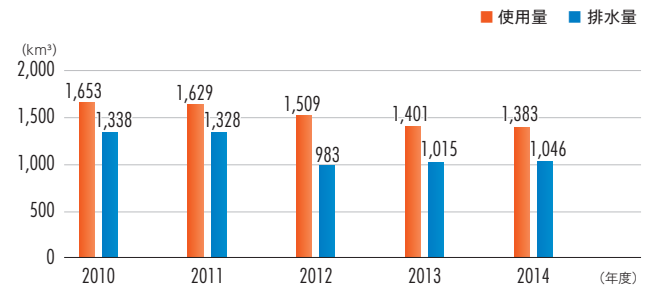
管理番号	物質名	取扱量
88	六価クロム化合物	48.7
309	ニッケル化合物	0.7
400	ベンゼン	0.8
1	亜鉛の水溶性化合物	4.5
53	エチルベンゼン	46.8
57	エチレンジクロールモノエチルエーテル	2.1
80	キシレン	64.3
83	クメン	1.1
133	エチレンジクロールモノエチルエーテルアセテート	3.1
188	N,N-ジシクロヘキシルアミン	0.7
239	有機スズ化合物	0.6
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	6.5
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	1.4
300	トルエン	74.4
304	鉛	5.3
308	ニッケル	1.5
392	ノルマルヘキサン	0.6
410	ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル	0.5
412	マンガン及びその化合物	3.1
438	メチルナフタレン	4.6
460	りん酸トリトリル	22.2

※環境社会報告書には各事業所の合計が0.5t以上の物質について掲載しています。

水資源の利用状況

工場では生産設備・器具の洗浄や冷却などで多くの水を使用しています。貴重な水資源を効率的に活用するため、設備運転条件の改善などにより水の使用量を削減するとともに、定期的に水質を確認しながら汚染防止を図っています。

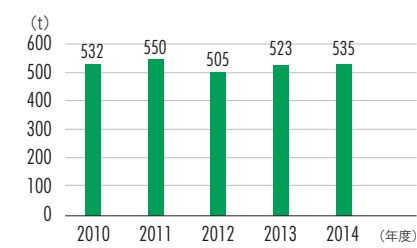
水使用量・排水量



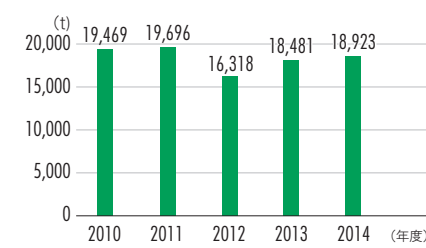
廃棄物低減への取り組み

廃棄物の発生を低減するため、設計・製造・販売・物流のあらゆる段階での省資源化（リデュース・リユース・リサイクル）を進めています。また紙ごみやプラスチックなどでは分別を細分化し、リサイクル率の向上を図っています。今後も汚泥リサイクル、スクラップ材の有効利用、アルカリ廃液減容などを推進し、廃棄物低減を図ります。

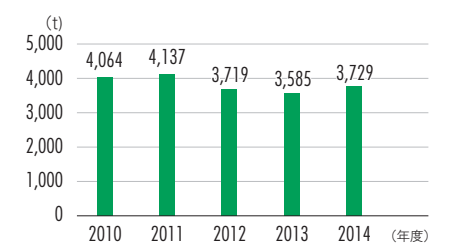
一般廃棄物排出量



金属屑排出量



産業廃棄物排出量



シール屑のマテリアルリサイクル

岐阜東工場では、油圧シリンダに用いるシール製品を生産しています。シール製品を自社で開発、生産することで、高性能な油圧シリンダを生産できることが当社の強みです。

シール生産では、型抜き作業時に出る不要箇所の切削加工や段取り時の材質変更に伴う混合防止対策等の工程で排出されるシール屑を産業廃棄物として排出していましたが、そこで、産業廃棄物の分別を徹底し、一部の材料のシール屑をマテリアルリサイクルすることで、16~18t/年の排出量削減を行いました。



シール屑の分別回収

廃液処理の内製化

(株)タカコでは、グループ内企業の共通課題である産業廃棄物低減活動について、改善活動を行っています。その一環として、工場から出る含水廃液の水分を蒸発させ、排出量を削減するための設備を導入しました。油分の多い含水廃液を安全に水分だけ蒸発させ、濃縮させることにより、年間約48m³の廃液処理を内製化し、約96万円の廃棄物処理費用を削減することができました。今後も稼働率をさらに向上させて、効果を上げていきます。



蒸発濃縮装置

塗装前処理廃水処理施設の導入

KHIZ(中国)

KHIZで生産している油圧シリンダ、モータ製品の塗装は環境負荷の少ない水溶性塗装を採用しています。塗装前処理工程で排出される廃水の量は年間233トンで、すべて産廃処理業者へ委託していました。2014年3月、塗装前処理廃水処理施設の導入により、廃水を汚泥化することで、廃水量を1%以下に減容しました。近年、中国で環境への関心が高まっている中で、廃水処理施設での管理体制を強化し、日々これを維持・継続して取り組んでいきます。



廃水処理装置の一部

お客様のために

お客様満足向上の取り組み

品質基本方針

KYBでは「良い品質はわが社のいのち」の考えのもと、経営理念を具体的なモノづくりやサービスの現場での活動方針・方策へと展開し、お客様、社会の発展に貢献するため、さまざまな活動を行っています。

品質保証体制

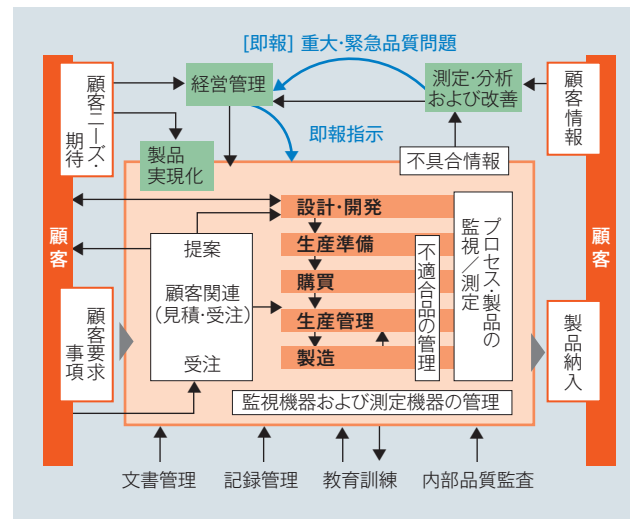
「製品品質」と「サービスの質」とともに「仕事のプロセスの質」が重要だと考えています。ISO9001認証取得をはじめ、品質保証体制の質の向上に努めています。

また、市場での品質不具合の撲滅と生産工程での不良低減・撲滅を通じた経営安定化と環境負荷低減に取り組んでいます。

工場長や本社役員による現場確認では、単に不具合箇所を指摘するだけではなく、課題を克服して成果を出したよい取り組みやモチベーション向上につながる事例などを見出し、グローバルで応用展開し、改善活動を通じた人材育成にも積極的に取り組んでいます。

開発～量産ステップ

品質マネジメントプロセスと品質保証体制



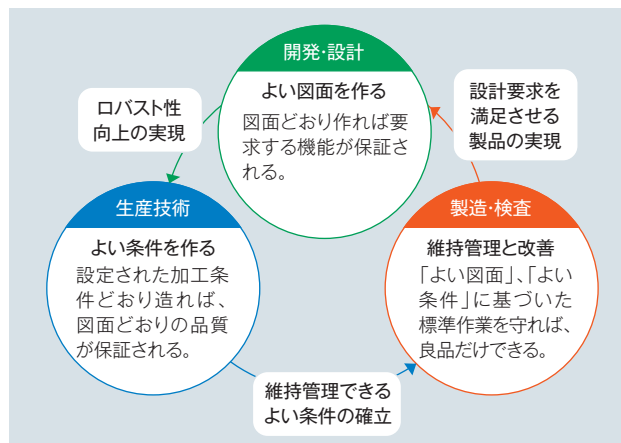
「市場やお客様のご要望に適合した性能・品質の製品をタイムリーにお届けする」ため、企画段階から量産開始までを3ステップにわけた「三段階評価による製品・技術開発」に取り組んでいます。やり直しやムダがない開発を進め、社会に貢献していきます。

三段階評価による製品・技術開発と品質安全宣言

ステップ	三段階の狙い	品質保証ステップ
先行・モデル開発 DRO評価会	可能性の証明 (開発品質の説明・評価)	開発品質
受注開発 DR1評価会	量産性の証明 (開発品質の説明・評価)	立上がり品質
量産開発・生産準備 DR2評価会	応用性の証明・シリーズ化 (立上がり品質の実証・評価)	量産品質

品質安全宣言
本生産を開始する前に量産製品としての品質が確実に作り込んでいることを明らかにする

KYBの目指す姿：品質未然防止のサイクル



お客様への情報発信

展示会はお客様から直接ご意見をうかがえる貴重なコミュニケーションの場と考えています。今後も各国の展示会に参加していきます。

出展した展示会（一部）

展示会	出展	場所
FOOMA JAPAN 2014	ADS冷凍肉プレス機など	日本・東京ビッグサイト
IFPEX2014	農業機械/建設機械用油圧製品群	日本・東京ビッグサイト
InnoTrans 2014	鉄道機器用油圧製品	ドイツ・ベルリン国際見本市会場
中国国際農業機械展	農業機械/建設機械用油圧製品	中国・武漢国際博覧中心
bauma China 2014	小型油圧ショベル製品など	中国・上海新国際見本市会場
InterAqua 2015	生活用水浄水機など	日本・東京ビッグサイト
ライティング・フェア 2015	ECOLVDなど	日本・東京ビッグサイト
CONEXPO-CON/AGG&IFPE 2014	建設機械用油圧製品など	USA-LAS VEGAS CONVENTION CENTER

お取引先様とともに

パートナーシップの構築

調達基本方針

KYBは、企業のCSRを果たし、社会に信頼される企業であり続けるよう活動しています。KYBがモノづくりを通じて継続的な事業発展を果たし、豊かな社会づくりに貢献していくために、お取引先様は商品づくりの大切なパートナーです。以下にKYBの調達の基本的な考え方をご紹介します。詳しくはwebサイトをご覧ください。

<http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

調達の基本的な考え方

- 1 お取引先様と共存共栄を目指した調達活動
- 2 法令の遵守
- 3 品質第一
- 4 安全衛生・人権・労働
- 5 継続的原価低減活動
- 6 納期対応
- 7 自然環境の保護
- 8 グローバル調達体制の構築
- 9 危機管理
- 10 機密情報管理
- 11 腐敗防止

2014年度調達方針説明会開催

KYBとお取引先様との連携強化のため2014年度も「KYB調達方針説明会」(東京會館・東京都千代田区)を開催しました。当日、196社のお取引先様をお迎えし、会社および調達方針を説明し、またQCDを意識して活動され効果を上げた優良なお取引先様に対する表彰を行った後、お取引先様を囲んでの交流懇親会も併せて開催しました。



2014年度 調達方針説明会

取引先テーマ研究会による改善活動

取引先テーマ研究会は2014年で8年目を迎えます。同研究会は、「お取引先様が抱える多くの課題の中でお取引先様自身だけでは解決が困難なことやお取引先様同士の共通課題を取り上げ、共同で研究していくこと」を目的とする自主的なチーム改善活動です。2014年度は安全、不良低減や労働生産性向上をテーマに、48社が7チームにわかれて活動を展開し、2015年3月の成果報告会を最後に1年間の活動が終了しました。

BCP(事業継続計画)活動状況調査について

東日本大震災の教訓から今後、発生が懸念されている三連動地震(東海・東南海・南海)に備え、お取引先様のBCP活動状況を把握することは重要であると考えています。主要なお取引先様を中心に全7項目(1.地震発生時に従業員を守る 2.二次災害を防ぐ 3.安全な避難経路 4.地震速報・備蓄 5.早期復旧対応 6.対応体制 7.仕入先被災対応)に対しアンケート形式の調査を実施し、自己評価をしていただきました。67社74事業所からの報告をいただき、取り組み状況の把握ができました。調査結果をお取引先様へフィードバックし、同活動を進めるに当たり、人命尊重を優先に着実に活動していただくようお願いしました。

紛争鉱物(コンフリクト・ミネラル)への対応

アフリカのコンゴ民主共和国および周辺国の紛争地域において、同地区から産出される鉱物4種(タンタル・タングステン・すず・金)を紛争鉱物と定義し、採掘される鉱物資源を購入・使用することで武装勢力の資金源となり、紛争地域での人権侵害等に寄与していないこと等を確認することが求められています。

KYBグループ企業は、CSRの視点や米国金融規制改革法(ドット・フランク法)の趣旨に基づいて、お客様やお取引先様と連携し、不正に採掘された紛争鉱物の不使用に向けた取り組みを行っています。

Hong Leong Yamaha Motorより「最優秀サプライヤ賞」を受賞

KMSB(マレーシア)

2014年10月、クアラルンプール郊外の会場で行われた「Hong Leong Yamaha Motor VENDOR AWARD 2014」において、Hong Leong Yamaha Motorより、最優秀サプライヤ賞を受賞しました。この賞は、品質、納期、価格協力など総合的な評価を行い、大きく貢献したサプライヤ12社が選ばれました。次年度も受賞できるように活動を行っていきます。



Hong Leong Yamaha Motor表彰式

地域社会のために

社会支援活動

職業リハビリテーション研究・実践発表会

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の依頼を受け、第22回職業リハビリテーション研究・実践発表会において「休職者の復職支援における効果的な連携」についてパネルディスカッションを行いました。企業、医療機関、支援機関が連携を図ることの重要性を説明し、参加者からも高い評価が得られました。今後も、各機関と連携を密にして活動を続けていきます。



会場となった東京ビッグサイト

参加パネリスト

セルバンティーノ国際芸術祭への協賛 KMEX(メキシコ)

ラテンアメリカにおける最も重要な芸術・文化の祭典であるセルバンティーノ国際芸術祭。42回を迎えた2014年は、日墨交流400年の記念の年でもあり、日本は特別招待国として日本の芸術・文化の魅力を伝えました。日頃私たちの企業活動を行っている地元への感謝として、KYBからも協賛金を贈呈しました。経済成長著しいメキシコにおいて、日本企業が重要な位置を占めてきたことを実感するとともに、その発展の一躍を担えればと願っています。



セルバンティーノ国際芸術祭

チャレンジスクール協賛

元F1(フォーミュラワン)ドライバーの片山右京氏が「F1・登山・自転車」など、多様な挑戦を続ける中で感じたスピリットを、未来を担う子供たちに伝えていきたいという思いからスタートしたTeam UKYOチャレンジスクール。次世代を担う子供たちがさまざまな活動を通して「自然を慈しむ心」「挑戦する心」「最後まで絶対にあきらめない気持ち」を育む、アウトドア型体験プログラムです。KYBはこの活動に賛同して支援を行っています。



チャレンジスクールに参加した子供たち

可児工業高等学校でのモノづくり教育

KYBでは、工業高校への実践教育と将来の技能者育成を主眼に、産官学と連携して岐阜県立可児工業高等学校の「高校生ものづくりコンテスト」出場のお手伝いに5年前から取り組んでいます。

岐阜南工場の技能訓練所に生徒を招き、当社の技能講師が1カ月以上にわたり訓練を行いました。この結果、2014年度は東海地区大会ではみごと優勝を果たし、全国大会に出場しました。

今後も地域社会との共生のために、企業と学校・官庁が一体となった活動に取り組んでいきます。



東海地区大会優勝賞状



旋盤加工の競技風景

本場で企業マルシェを開催

宮城県東京事務所のご支援をいただき、2015年2月本社(東京都港区)で企業マルシェ(宮城物産展)を開催しました。本社には常設の売店や生協がないため、どのくらいの人数が集まるか不安でしたが、当日は大勢の従業員が訪れました。

東京近辺では購入できない商品も多くあり、改めて宮城県の物産の魅力を感じることができました。

当日、商品を購入した従業員の中には、今後も県のアンテナショップや通信販売で宮城県の商品を購入したいとの声も聞かれ、被災地産品の消費拡大のお役に立つことができました。



盛況となった物産展

障がい者就労支援

当社の岐阜地区では、岐阜県教育委員会、特別支援学校および企業が一体となって障がい者の就労支援を進める「働きたい!応援団 ぎふ」に3年前から登録しています。このたび特別支援学校の卒業生の雇用や職場実習の受け入れを継続している当社を含む企業10社に対し、教育委員会より感謝状が授与されました。特別支援学校には就職して、自立したいと考えている生徒が多勢います。引き続き障がい者の就労支援を進めていきます。



表彰式が行われた大垣市スピアセンター

小学生向け持久走教室

KYB陸上部が地元小学校を訪問し、体育の授業でランニング指導を行いました。福岡国際マラソンなどにも参加する陸上部員が子供たちとのひとときを楽しみました。この活動は2005年から行われており、生徒からも人気のある地域貢献活動の一つとなっています。



走り方の指導をする陸上部員



子供たちと

桜が取り持つ友好

中国鎮江市に生産拠点を置くKYBでは、社会貢献の一環として地元の江蘇大学のキャンパス内に、桜の庭園を造園する際に750本の桜の苗木を寄贈しました。庭園は「江蘇大学-KYB桜花友誼園」と命名され、多くの関係者が見守る中、江蘇大学学長、鎮江市新区書記などの来賓が出席し、開園式が開催されました。

これから毎年、美しい桜の花が日中友好のシンボルとして咲き続けることを願っています。



除幕式後に学生と交流する社長の白井

地域社会のために

社会支援活動

看護大学産業看護実習での安全教育

岐阜地区工場では、岐阜県立看護大学3年生の産業看護実習を1~2日コースで受け入れています。実習では主に健康管理について学びますが、従業員をけがや病気から守るという安全衛生の観点から安全体感道場の見学も加えています。安全担当から具体的な事例を聞き、予防教育の重要性を知り、「従業員の健康を守る活動に、会社を挙げて取り組んでいることがよくわかった」などの感想が聞かれました。



安全体感機の説明

相模原の環境をよくする会

「相模原の環境をよくする会」は、公害を未然に防止し、豊かな自然を守り快適な環境をつくるため、毎年四季を通じて環境の変化を監視しています。当会の会員として当社は自然保護活動に参加しており、2014年度は「河川生物調査」と「自然観察」「野鳥観察」に参加しました。



河川生物調査



野鳥観察

地域清掃活動への参加

本社のある港区では、芝地区生活安全・環境美化活動推進協議会が主催する芝地区クリーンキャンペーンが行われており、当社もこの活動に参加しています。

この活動では町会、自治会、商店会、PTA、企業などが参加して路上喫煙等禁止の啓発活動、清掃活動などを行っています。

地域の一員として自分たちの働いている地区の美化に協力するとともに、普段はあまりお会いする機会のない町会や自治会の方と一緒に活動しています。



線路脇の清掃活動

産業フェアin可児2014に出展

2014年11月に、可児商工会議所主催の「産業フェアin可児2014」が開催されました。このフェアは、各社の製品・技術・サービスなどを可児市内外の皆さんに広くアピールするとともに、地域の活性化に寄与することを目的としています。今回は可児市内から92社が出展し、約2万人の人出で賑わいました。当社も市内の3工場(岐阜北・岐阜南・岐阜東)で生産する製品を展示し、子供たちにも人気でした。



家族で楽しむKYBブースの様子

インドの見本市に出展

KCPL(インド)

KCPLは、デリー近郊で行われたインド最大級の建設機械見本市「bC-India」に出展しました。KYBでは2種類のミキサ車を含むコンクリート機械7製品を展示し、当社の品質力をアピールしました。また、日本文化の紹介の一つとして野点(のだて)を催しました。日本人の先生のお点前に合わせて茶道やその作法を説明すると、大勢の来場者が興味津々で足を止め、初めての抹茶を楽しんでいました。



野点の表演



KYBブース

従業員とともに

人財の活用と職場環境づくり

基本的な考え方

ライフスタイルの変化や働き方の多様性を生かした、より効率的な人財活用を促すため、働きやすい人事・福利厚生制度や職場環境づくりに取り組んでいます。これらの課題について、労使による人事・福利厚生制度検討委員会を設置し、従業員の多様なニーズにマッチした働きやすい職場環境づくりを目指し、「ワークライフバランスの推進」「仕事と家庭の両立のための支援制度」「社宅独身寮の有効活用」「選択制福利厚生制度(カフェテリアプラン)」などのテーマの検討を進めています。

健康セミナーの開催

KYBでは毎年、秋の全国労働衛生週間に合わせて、健康セミナーを開催しています。2014年度、相模工場では「肩こり、腰痛、膝痛に効果的!簡単ストレッチ&トレーニング」と題し、スポーツトレーナーによる運動指導を行いました。参加者からは、「日常生活にも無理なく取り入れられる内容で役に立った」と非常に好評でした。



ストレッチで体をほぐす従業員

技能五輪全国大会

技能五輪全国大会は、満23歳以下の技能日本一を競う大会で2014年は愛知県で開催され、41職種に約1,200名の若者たちが出場しました。

若手技能者育成を目的として、旋盤職種に人事部人財育成センターから天池瞭太が出場しました。参加者が多い旋盤は、約5時間の中で一つひとつの部品精度を極限まで高め、5種類の部品を加工し組み立てなければならない競技です。今後も若者に夢と希望を与える技能者育成を進めていきます。



旋盤で加工の様子



課題の5部品

新入社員研修での野外体験学習

「KYBグループ力で成果を出せる人財の育成」を目的に、2011年度の新入社員研修から、野外体験学習(神奈川県足柄研修)を実施しています。業務で同じように直面する「最適解を求める課題」が与えられ、それぞれのチームで課題にチャレンジする研修です。

そのチャレンジ過程で、

- ①自分で考え、主張すること
- ②相手の意見を聴くこと
- ③チームで達成していくこと

など、会社での成功パターンやコミュニケーションを学び、連帯感と達成感を体験します。

この野外体験学習は、新入社員研修の中で一番印象に残る研修となっています。

今後も体験学習を継続し、「活気あふれるKYB風土」醸成に寄与していきたいと思えます。



「Aライン」の課題で一致団結



力を合わせて目的を達成!

VOICE

新入社員研修を受けて

新入社員研修の一環として、野外体験学習を行いました。野外体験学習では、チームで課題に挑戦します。「Aライン」という学習では、「与えられた道具を使ってどのようにゴールするか」が課題でした。人によってさまざまな考え方や方法があり、出された意見をまとめることはとても難しいことでしたが、チームで協力しながら困難な課題を解決することができました。一人では難しいと思っていた課題をチームで活動することによって解決できたことは、とても貴重な体験となりました。また研修を通してチームが一つになり、同期入社の人々との距離が縮まり団結力も高められたと思います。今後、これらの体験を配属先の業務に活かしていきます。



左滝川 唯(AC事業本部 第一営業部)
右西牟田 紀恵(人事部)

人財育成と技術力の向上

LT50活動

「LT50活動」はモノづくりのリードタイムを50%削減する活動です。

生産の方法だけでなく、部品の調達やお客様への輸送、業務効率の向上も含まれています。

原価低減、品質向上、さらには環境保全や安全につながる活動です。KYBグループ全体の活動として、関係会社だけでなく海外拠点にも展開しています。

改善例 - 1

二輪部品庫フォークリフトレス活動 (KYBモーターサイクルサスペンション(株))

改善前

部品メーカーから納品された一部のスプリングを鉄パレティーナ(鉄製の籠)に収容し、フォークリフトで荷揃え場へ移動させ、ライン投入用の箱に詰め替えていました。



フォークリフトレス
作業時間の短縮

改善後

お取引先様のご協力により、納入荷姿を小さなポリ箱に切り替えることで、手扱い作業が可能となりました。



改善例 - 2

大型シリンダの重量物運搬(岐阜南工場)

改善前

4mの長物の重量物(ピストンロッド)を幅2.2mの通路で、フォークリフトで運搬していました。



安全性・作業性の向上

改善後

ピストンロッドの姿勢を横から縦へ変え、横幅を1.1mとし、けん引車による運搬に変更しました。



モノづくり技術発表会(からくり展)開催

モノづくり力を高めること、現場での「問題発見力」、「改善力」、そして「それを継続する力」を養うことが会社の基盤強化につながります。2014年度は、「モノづくりの原点は創意工夫を凝らしたからくりである」との考えから、からくり技術をメインとした技術発表会を開催しました。展示エリアには環境・安全・品質・生産など71テーマのコーナーが設けられました。また社外講師をお迎えして、講演会「からくり技術による現場のモノづくり力強化」を開催し、社長をはじめ約130名が聴講しました。モノづくりの工夫を競い合い、学び合う場として大変有意義な発表会となりました。



からくりを使った搬送装置

グローバル技術者研修

海外生産拠点のモノづくり力向上を目指して、2006年からグローバル技術者研修を実施しています。本研修は、現地・現物で「対話方式の抗議」「体感実習」「先進工場の見学」を柱に、半月または1カ月間行われます。基礎から応用までの技術を習得したのち、自拠点の改善案を作成し、帰国後はその改善案を実行してもらいます。

2014年度は4コースを、9カ国16拠点から48名が受講しました。自拠点の現場改善を推進できる人財の育成に重点をおき、KYB生産方式を学ぶコースは2回の実施に拡充しました。

今後も本研修を継続し、海外生産拠点のモノづくり力強化を推進します。



実習器を使った研修

グローバル・ネットワーキング・プログラム

グローバル・ネットワーキング・プログラム(GNP)は経営知識を身につけるとともに、世界中のKYBグループ従業員がコミュニケーション能力を高め、ネットワークづくりを推進することを目的に開催しています。初開催となった2014年度は、米国・欧州・中国・アセアン・日本から10名が参加しました。

メンバーはKYBをよりよい会社にするための提言を、活動成果として発表しました。今後も継続してGNPを開催し、多くのグローバルスタッフに参加してもらい、KYBグループの一員として活躍できる人財育成の機会としていきます。



白熱するグループ討議

KYBグローバル生産会議

2014年11月5日から3日間にわたり、岐阜北工場において海外を含めた23拠点51名が出席した「KYBグローバル生産会議」が開催されました。環境や安全、品質、生産をテーマとして活発な意見交換が行われました。

環境については、相模工場のエネルギー・廃棄物低減活動事例、安全面ではKYB-YS(株)での従業員の意識改革による労災低減事例や設備の安全化活動についての紹介がありました。会議では、活発な意見や質問などが出され、情報の共有化が図られました。



担当役員による方針説明

従業員コミュニケーション

スポーツ・文化交流大会

「未来へつなごうKYBの絆」をスローガンに、長野県でスポーツ・文化交流大会が開催されました。初めてのグループ会社共催(KYB-YS(株)、KYB-CADAC(株))となった今回は、蕎麦打ち競技や温泉地での宿泊など信州を満喫できる大会となり、約850名が参加しました。また、フットサルには海外からスペイン、タイ、ベトナム、インドネシア、マレーシアの5チームが参戦し、年々国際色豊かな大会になってきています。秋晴れの信州はKYBグループの熱気に包まれ、絆もますます強まりました。



フットサル

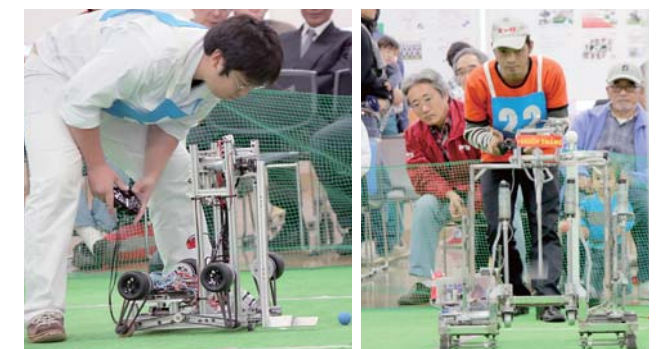


蕎麦打ち競技

第7回「KYBロボットコンテスト」開催

2014年11月8日に相模工場にて第7回「KYBロボットコンテスト」が開催されました。今回の課題は、ゴルフです。国内(グループ会社含む)17チーム、海外5チームの計22チームが参加しました。多種多様なショット、パッティング機構にKYBのモノづくりスピリットを感じさせられました。

今回はPT.KYBI(インドネシア)が初優勝し栄冠を手にしました。従業員とその家族の総勢340名の来場者により、当日は大変盛り上がりしました。



パッティングに挑戦

従業員とともに

安全で働きやすい職場づくり

「止める・呼ぶ・待つ」を掲げ活動

2012年度から「安全はすべてに優先」をスローガンに掲げ、全社一体となって活動を行ってきました。安全担当役員を委員長とした全社機能の「環境安全委員会」を中心に、各事業所の「安全衛生委員会」が中核となり具体的な活動を行っています。

2014年度は災害の未然防止を最大のテーマとして「止める・呼ぶ・待つ」をスローガンに活動しました。設備の異常などで問題が発生したら、すぐに作業を停止させ、上司に報告。指示を待つことを徹底しました。その結果、2014年度下期では設備異常処置での災害がゼロとなりました。今後も呼び出し用のボタンや通信端末などを整備し、労災ゼロに向けた活動を継続していきます。

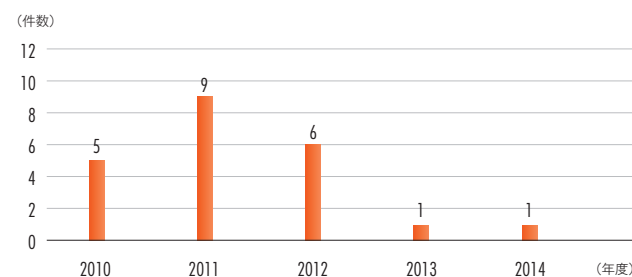


啓蒙ポスター（岐阜南工場）

休業災害の低減

製造ラインおよび実験開発部門などの間接部門も一緒になってあらゆる作業を徹底的に洗い出し、そのリスクアセスメントを実施しました。2014年度においては、特に危険とされる不安全箇所（落下の危険がある箇所、大きなエネルギーを持つ設備など）の改善を実施しました。約50%の改善を行った結果、休業災害など重度の災害を未然に防止することができました。今後は設備異常時の対応などの作業に重点をおいてさらに改善を進め、労働災害の撲滅まで活動を継続していきます。

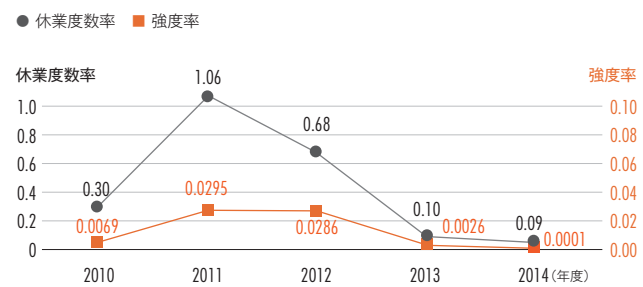
休業災害件数



休業度数率・強度率の低減

2011年度から2012年度にかけて挟まれ、打撲、転倒などの災害が多発しました。これは設備の不安全箇所や通路、階段における凹凸、手すりの未設置などが原因で発生していました。そこで2014年度においてはこの3大労災の撲滅をスローガンに安全相互点検、設備安全の見直しなどを行い、危険箇所を徹底的に洗い出しました。その結果、駆動部分の露出、両手スイッチ化の未整備、物の置き方の不具合、不要物などが多数見つかりました。これらは安全作業を遂行する上で大きな妨げとなるため、関係者一丸となって改善に取り組みました。その結果、休業度数率、強度率を大きく低減することができました。今後もこの活動を地道に継続し、労災ゼロを目指していきます。

休業度数率・強度率



※休業度数率=(休業者数/総労働時間数)×1,000,000
 ※休業強度率=(休業日数/総労働時間数)×1,000

第73回全国産業安全衛生大会にて発表

広島県で開催された、「第73回全国産業安全衛生大会2014」にて、不安全行動に起因する労働災害の低減を目的として「安全意識高揚運動の取り組み」と題し研究発表を行いました。階層別の安全意識の繰り返し調査、分析に基づき上司が部下の安全意識レベルを把握、意識レベルの弱い部分を上司が面談して補完したこと、などの活動により、意識レベルの向上が図れたことを報告しました。

当日は大勢の方に聴講いただき、発表後の問い合わせも多かったことから、安全意識調査の関心が高いことを実感しました。



発表者 KYB-YS(株)寺沢 昇

安全相互点検の実施

国内各工場の安全実務者が相互に工場を点検する「安全相互点検」を実施しました。駆動部の露出や歩行路など、3大労災の主な原因となる危険箇所を重点的に点検しました。他工場の安全実務者が新鮮な目で見ることで潜在的な危険源を発見し、労災の未然防止を図っています。

また1年間の活動で出された指摘事項の改善や、よい事例の展開はそれぞれの工場で計画に基づき実施しています。非常に地道な活動ですが、今後も継続して行っています。



不具合を指摘する点検者

フォークリフト削減活動

岐阜北工場では、2006年に143台のフォークリフトを使用していました。フォークリフトは安全性に問題があるため、2007年よりフォークリフトレス活動を開始し、手扱いてきる製品および重量物である鉄器具関係の集配を、より安全な電動けん引車に切り替えました。2014年は94台まで削減しています。

今後は工数変化の対応も考慮しつつ、生産タクトの異なるラインからもけん引車による引き取りを行いながら、フォークリフト削減を進めていきます。



改善前
フォークリフト

改善後
電動けん引車

安全体感道場

KMSB(マレーシア)

「0 Accident is My Aim」を目標に掲げ、安全活動を各種行ってきました。さらなる活動の強化を図るため、KYBグループ、お客様の安全教育を参考にして、安全体感道場を設置しました。こちらでは、回転体、バリ・切粉、エアブローなどの危険箇所をシミュレーターを使って、疑似体験できます。

さらに、機械の危険箇所だけでなく、消火器の使用方法、作業者の服装・保護具、通勤バイクの服装などの資料展示を行い、安全全般にわたり教育ができるようになりました。今後も災害ゼロを目指し、活動を積極的に進めていきます。



安全体感道場内



作業保護具

社内診療所の設置

KAC(アメリカ)

米国では従業員が通院すると、会社が25%の医療費を負担しなければなりません。KACでは医療費が非常に高額であることに伴い、会社内クリニックを開設しました。従業員、家族への利便性が向上し、さらに2014年4月開設以降で多くの医療費を削減することができました。

また工場内に医療スタッフが常駐しているため、緊急時には迅速な対応が可能となりました。今後も多くの従業員がサービスを利用できるようにしていきます。



左:医師 Michelle Wallace
右:看護師 Jyoti Singh



診療所内